

# サイエンスアゴラ 2017 公開シンポジウム

## 「うちの子、少し違うかも…Ⅱ

### ～エビデンスに基づく発達障害支援をみんなで考える～

2017年11月26日(日) 10:15～12:30 (開場 10:00)

テレコムセンタービル 8階会議室 B

## プログラム

10:00 受付開始

10:15 開会

挨拶 **真先 正人**(科学技術振興機構 社会技術研究開発センター長事務取扱 理事)

講演

**神尾 陽子 氏**

(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部 部長)

『地域でのエビデンスに基づく早期支援』

**船曳 康子 氏**

(京都大学大学院人間・環境学研究科／総合人間学部 准教授)

『本人・保護者・教育・医療の連携～同時面談システムを通して～』

**山野 則子 氏**

(大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 教授／

スクールソーシャルワーク評価支援研究所 所長)

『エビデンスに基づく福祉と教育の協働の社会実装～スクールソーシャルワーク(SSW)の視点から～』

パネルディスカッション

**熊 仁美 氏** (特定非営利活動法人 ADDS 共同代表) ※パネルディスカッションモデレーター

**外岡 資朗 氏** (鹿児島県子ども総合療育センター 所長)、上記講演者3名 ※パネリスト

フロアとの対話(質疑応答)・まとめ

12:30 閉会

## 登壇者ご紹介



**神尾 陽子 氏 (講演者・パネリスト)**

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部 部長

京都大学医学部卒業、ロンドン大学附属精神医学研究所児童青年精神医学課程修了、京都大学医学部精神神経科助手の後、米国コネティカット大学（フルブライト研究員）で自閉症研究に従事した後、九州大学大学院人間環境学研究院助教授を経て、2006年より国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部部長、2010年より山梨大学客員教授、2017年よりお茶の水女子大学客員教授を併任。



**船曳 康子 氏 (講演者・パネリスト)**

京都大学大学院人間・環境学研究科／総合人間学部 准教授

1996年京都大学医学部卒業。京都大学医学部附属病院、京都市立病院にて研修後、京都大学大学院医学研究科に入学し、認知症の臨床研究を行った。2000年からは、カリフォルニア工科大学行動生物学教室に留学し、小鳥の歌を用いた音声発達の臨界期の研究に従事。2003年に帰国し、こころの発達、発達障害の分野の臨床と研究に従事。日本学術振興会特別研究員、京都大学医学部附属精神科助教を経て、2015年より現職。



**山野 則子 氏 (講演者・パネリスト)**

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 教授／  
スクールソーシャルワーク評価支援研究所 所長

関西学院大学社会学研究科後期博士課程修了、博士（人間福祉）。内閣府：子どもの貧困対策検討委員会委員・有識者会議委員、文部科学省：中央教育審議会生涯学習分科会委員、企画調整部会委員、家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会座長、教育相談等に関する調査研究会委員、厚生労働省：社会保障審議会臨時委員、ほか国の委員多数。大阪府子ども施策審議会会長、子どもの貧困部会部会長、大阪府スクールソーシャルワーク配置事業スーパーバイザー、ほか多数。



**熊 仁美 氏 (パネルディスカッション モデレーター)**

特定非営利活動法人 ADDS 共同代表

2010年、慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了。2011年、自閉症児に効果的な早期療育が届くことを目指し、NPO法人ADDS設立。2013年、同大学院後期博士課程を単位取得退学、同大先導研究センター研究員。自閉症児のコミュニケーション研究や、早期療育の実践研究に携わる。NPO法人では、保護者が家庭療育に取り組むためのペアレントトレーニング、セラピスト認定制度等を実施し、現在までにセラピストを約100名養成、ペアレントトレーニングを約200家庭に提供してきた。



**外岡 資朗 氏 (パネリスト)**

鹿児島県こども総合療育センター 所長

小児科医師。1988年、熊本大学医学部卒業、熊本大学大学院医学研究科へ入学後、同大医学部附属病院発達小児科にて勤務し、1996年、熊本大学大学院単位取得修了。1999年より鹿児島市立病院小児科（小児神経科）で医師、医長、科長を歴任後、2007年より鹿児島県児童総合相談センター療育指導部長、2010年より現職。鹿児島県こどもの虐待問題研究会副会長を併任。